やぎさと　道徳だより

八木郷小学校
令和５年・３・２３
NO、７

２月の「第７回傾聴作文」では、１～３年生は担任ではない先生の話（例えば１年１組で３年１組の担任が話す）、４～６年生は校長先生の話を聴いて自分が感じたことを文章にまとめました。
第６回の校長先生のお話と子どもたちの感想をお知らせします。

「自分本位を見直す」

今日の傾聴作文は、４，５，６年生に、人間関係をよくしようというお話をします。

人と人との付き合いの中で、ときに気が合わない人や、ちょっと苦手だなと思う人は誰にでもいると思います。あぁ、あの人のことだなとか、あの顔だなとか。人にはそれぞれ個性がありますからね。頑固な人とか、几帳面な人とか、無口な人とか、神経質な人とか、思ったことをズバズバ言う人とか。ただ、学校も大人になってからのお仕事の職場も、そういう個性的な人たちの集まったコミュニティというか、集団社会なのです。自分の好みの個性とか気が合う人だけが集まる集団社会は、これから先まずないと言っていいでしょう。そんな集団社会に自分本位、自分本位とは自分中心に（自分優先に）物事を考えることをいいますが、自分本位で、思いやりのかけらもなく、自分勝手な人がいたら、みなさんはどう思いますか？　自由で素晴らしい人だとか、なかなかよい人物だとか思う人はまずいないでしょう。

人が暮らす市や町には、必ず規則があります。それは、みんなが心豊かに楽しく、心地よい生活を送るための約束事です。もしその約束をあちこちで破る人がいたら、市や町は大混乱です。たくさんの人が嫌な思い、つらい思いをします。学校も小さな町と同じで、しっかりと気持ちよく学校で勉強するためには、みんなが協力して市や町と同じように規則を守り、友達など周りの人を尊重して、仲良く付き合っていくことが大切です。一人一人が相手のことを思い、苦手な相手でも思いやりをもって接していけば、自然と人間関係がよくなり、お勉強もしっかりできるようになるでしょうし、あたたかなクラスの雰囲気ができて、学校が楽しくなるでしょう。

自分本位を見直して、誰が相手でも思いやりをもって人間関係を良くすることができるようになってください。

児童の感想から

・このお話は、苦手な人でも優しい気持ちで接したら、クラスが温かくなるというお話でした。お話を聴いて心に残ったことは、「苦手な人でも優しく」ということです。それは、もし苦手な人に優しくできないと、その人が学校に行きたくなくなってしまうこともあると思ったからです。私も自分が気づかないうちに、相手にいやなことを言ってしまっているかもしれません。これからは、苦手な人でも優しくして、クラスを温かくしていきたいです。（４年生）

・このお話は、自分本位を見直して、人間関係を良くしていこうというお話でした。私はこのお話を聴いて、自分本位なところがあったら、見直すことが大切という所が心に残りました。私は、友達と遊んでいる時にアニメを見ていて、私が「絵を描きたい。」と言ってアニメを見るのをやめさせてしまうことがあります。これからは、自分の意見ばかり言わず、相手の意見をしっかりと聞くようにしようと思いました。（４年生）

・人間には色々な個性や性格があるというお話でした。心に残ったところは、誰が相手でも思いやりを持って話をすることが大切というところです。私も仲がいい人や苦手な人がいますが、これからは苦手な人にも思いやりの気持ちを持って、少しでも仲良くしていきたいです。そして、色々な人と仲良くなって良い人間関係を作っていきたいです。（４年生）

・このお話を聴いて、人間関係をよくするには約束を守ることが大切だと思いました。なぜなら約束を守らないと色々な人に迷惑をかけてしまうからです。自分も、友達と待ち合わせをしたのに、急に友達がいなくなってしまい、困ったことがあります。僕はこれからも約束を守って人間関係を良くしていきたいです。（４年生）

・私は校長先生のお話を聴いて、人間は自分のことしか考えていない人が一人でもいると、市や町が壊れてしまって人間関係が悪くなるので、自分のことしか考えず苦手な人でも相手のことを考えることが大事だと思いました。私はこれから、自分のことも人のことも考えて生活したいです。（５年生）

・このお話を聴いて、人間関係を良くすることは、とても良いことだと思いました。理由は人間関係を良くすると、けんかなども起こりにくいと思ったからです。関係を良くしていくにあたって、僕は自分のことばかり優先するのではなく、相手に思いやりを持って接していけたらいいなと思いました。（５年生）

・このお話は、自分勝手な人をどう思うかというお話です。私はこのお話から、自分本位ということは、ダメなことだと思いました。人によって個性が分かれているので「この人は嫌いだな。」と思うことがあるかもしれないので、自分も気をつけたいです。これから中学生、高校生とどんどん大人になっていくので、自分本位にならないように人に対して思いやりを持って過ごしていきたいと思います。（６年生）

・この話は、「一人一人個性があるから、人間だれしも苦手な人はいるけれど、自分のことしか考えず周りが見えなくならないように。」という話でした。私も、自分の周りが見えなくなって自分のことしか考えない自分本位になることがあるので、これからは周りを見て行動していこうと思いました。大人になっても自分本位にならないように、周りを見て、感じて、行動したいです。（６年生）

☆☆☆　5 ・6 年生の道徳科の学習から　☆☆☆

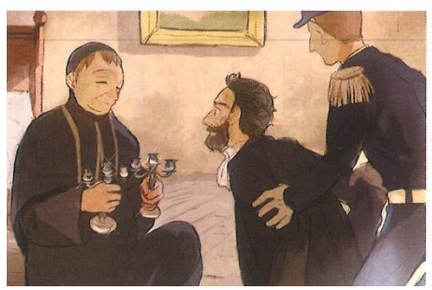
3月1日（水）　5時間目　　5年1組

銀のしょく台

【あらすじ】
　ミリエル司教の家に泊めてもらったジャンは、銀の食器を盗んで逃げだした。ジャンが警察に連れられて戻されると、司教は、「食器はあげたのだ」とうその証言をした。

授業では、最初自分だったら
ジャンの行動を許せるかどうかから
話し合いを始めました。

許すことの難しさを確認し、
司教の行為に込められた
思いについて、考えました。



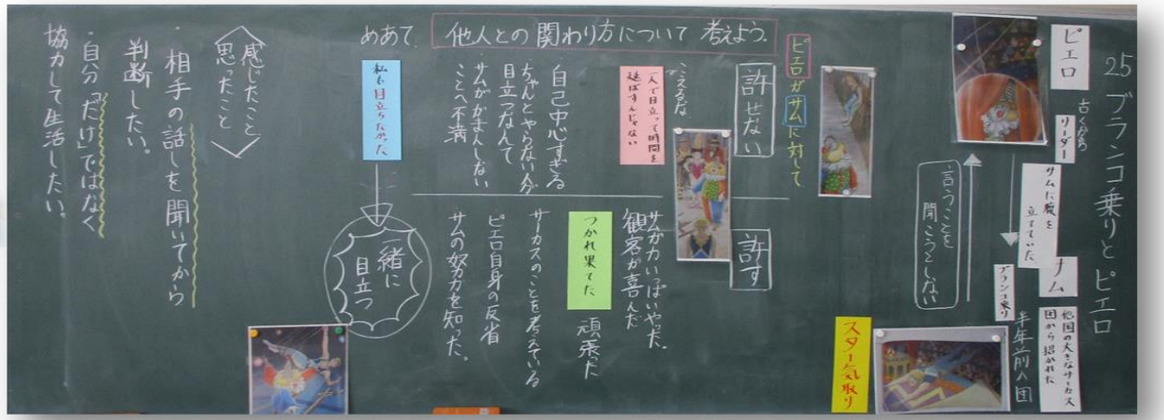
児童の振り返りから

・これから、苦手な人でも、いいところがあると思うので、苦手というイメージではなく、いいところがあると思える人になりたいです。
・相手といっぱいしゃべったり、いいところを見つけようとしたりすることで、相手に広い心で接することができるのかなと思いました。
・これから、相手の気持ちを考えてもっとよりよい人間関係を作りたいです。さらにやさしくして、広い心をもちたいです。

2月16日（木）　4時間目　　6年1組

ブランコ乗りとピエロ

【あらすじ】
　サーカスで自分だけ目立とうとしてサムに対し、ピエロは怒らずサムの演技を認めた。その結果、二人とも自分だけがスターだという気持ちを捨て、打ち解けた。



授業の中では、どうしてピエロはサムを許すことができたのかを中心に考え

児童の振り返りから

・何が何でも「自分が正しい」と思うのではなく、色々な考えを認めていきたいと思いました。人の話をよく聞いて信頼される人になりたいと思います。
・一人だけがスターではなく、みんながスターだから学校でも協力してみんなで作り上げていきたいと思いました。
・意見を言うのも「自分ばかり」ではなく、お互いに言い合って、普段学級会でやっているように、解決策を出せるようにしたいと思いました。